

30amS-003

患者シミュレーターを用いた6年次のアドバンスト・フィジカルアセスメント教育(第2報)

○藤本 哲也¹, 加納 誠一郎¹, 渡辺 一弘¹, 渡辺 泰裕¹(¹北海道薬大)

【目的】北海道薬科大学では実務実習終了後の6年生を対象に患者シミュレーターを用いたアドバンスト・フィジカルアセスメント演習を選択科目で開講している。演習受講学生のバイタルサイン(以下VS)やフィジカルアセスメント(以下PA)の理解度・測定手技及び症例・治療法のアセスメント能力を演習受講前後で把握するためアンケートを実施した。

【方法】本演習は3時間×2日間で行い、1と2日目の開講に6日の間隔を設けた。1日目:本演習を選択した20名の学生を3班(6-7名/班)に分け、班毎に異なる本学独自の症例1つを提示し、VSデータを患者シミュレーター(Physiko:京都科学)に入力させた。次に他班がデータ入力した異なる症例の患者シミュレーターよりVSを測定させた。2日目:VS測定データ及び患者背景シナリオから総合的にアセスメントし、薬学的根拠に基づく医師への提言内容を班単位でまとめ、症例を発表させた。発表した内容について、その症例のVS入力やPAを行っていない班も加わって討論し、患者シミュレーターのデータ入力班及び教員から検討した症例報告内容に対するフィードバックを実施した。

学生へのアンケートは1日目演習開始前と2日目演習終了時に行い、5段階尺度で8項目(VSやPAについての理解及び本演習におけるPA教育の有用性等)について検討した。更に患者シミュレーターでのVS測定手技及びPA能力の変化について、100%を満点として自己評価させた。フリーコメントによる本演習開講後の感想を回答させた。

【結果・考察】昨年と同様、本演習を受講した学生のVSやPAの理解度は有意に上昇した。更に本年度の調査では新たにVS測定手技及びPA能力の自己評価を行い、全ての項目において有意な向上を認めた。本演習は、VSやPAの理解や技術向上に加え、症例や治療法のアセスメント能力においても有効な教育法であることが示唆される。